フューチャー株式会社
証券コード：4722



Future Report 2026

2026.01.01- 2026.06.30

FUTURE

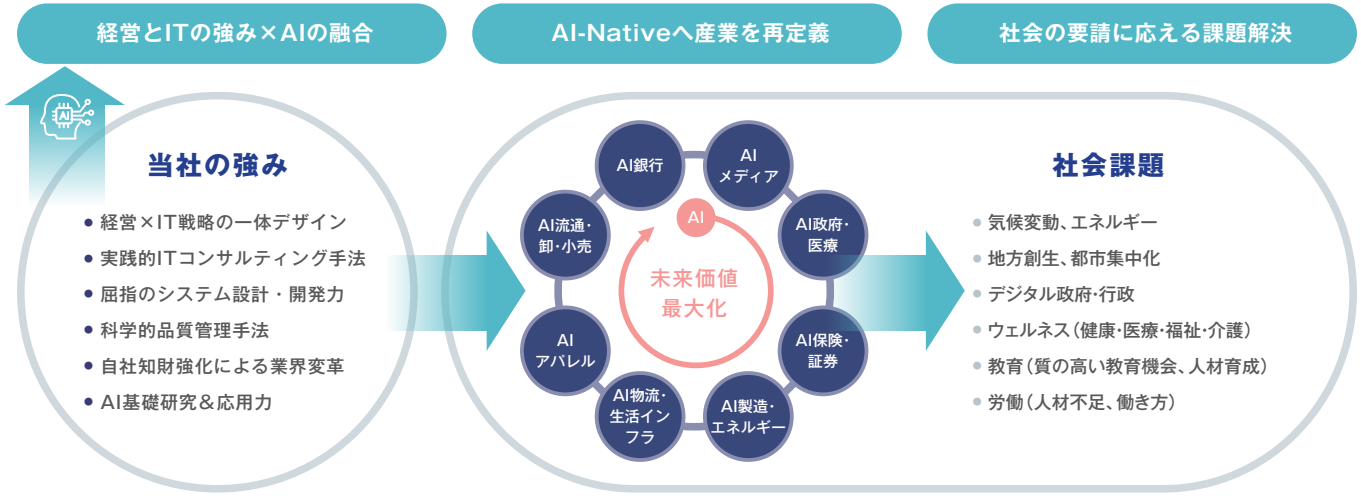
Future at a Glance

Q. フューチャーは今後どのように成長を続けていくのですか？

A. 経営とAIをデザインする、AI利活用と社会実装のNo.1カンパニーへの進化を図ります。

創業以来、当社はIT業界の大きな変化を取り込みながら、経営者のパートナーとしてビジネスのあるべき姿をデザインするコンサルティングスタイルを築き上げてきました。AI時代においても、AIの基礎研究と社会実装に取り組む専門チームを立ち上げ、企業の経営及び業務の改革に伴走することで新たな価値を生み出し続けています。

「AI社会実装No.1カンパニー」を目指す



当社の状況
（2026年6月30日現在）

創業	グループ企業	社員数	社員平均年齢
1989年	20社	3,814名	36.5歳
※37年目	※主要な連結子会社	※連結	

Top Message

先進テクノロジーと独創的アイデアで、自己変革と未来価値創造に挑戦する



フューチャー株式会社
代表取締役社長
谷口 友彦

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社は、経営戦略とIT戦略の両輪で未来をデザインするという理念のもと、企業や社会のあらゆる課題に向き合い、その未来価値を最大化することをミッションとしております。主要事業会社のフューチャーアーキテクト株式会社を中心に、多種多様な業種業態における当社グループのノウハウ及び知財の活用や新分野への挑戦を通じて、企業や社会における長年の課題を解決し時代に即した新たな価値を創出すべく努めております。

現在は、グループシナジーによる顧客基盤の拡大や知財展開による収益性の向上に加え、最新AIの利活用によりグループ全体の生産性を劇的に向上すべく自己変革を加速させております。その過程で体得したAIによる付加価値に当社グループのノウハウと独創的アイデアを組み合わせ、ソリューションとしてお客様へ還元することによりAIの社会実装を推進してまいります。

私たちは、デザインした未来イメージを最適な技術を用いて具現化できる実装力を強みに企業や社会の変革を牽引する存在として成長し続け、世の中の持続的な発展に貢献してまいります。

当社のいまを伝えるコンテンツ

Future Topics → P. 3
業績・財務ハイライト → P. 5-6
セグメント別業績・戦略 → P. 7-8

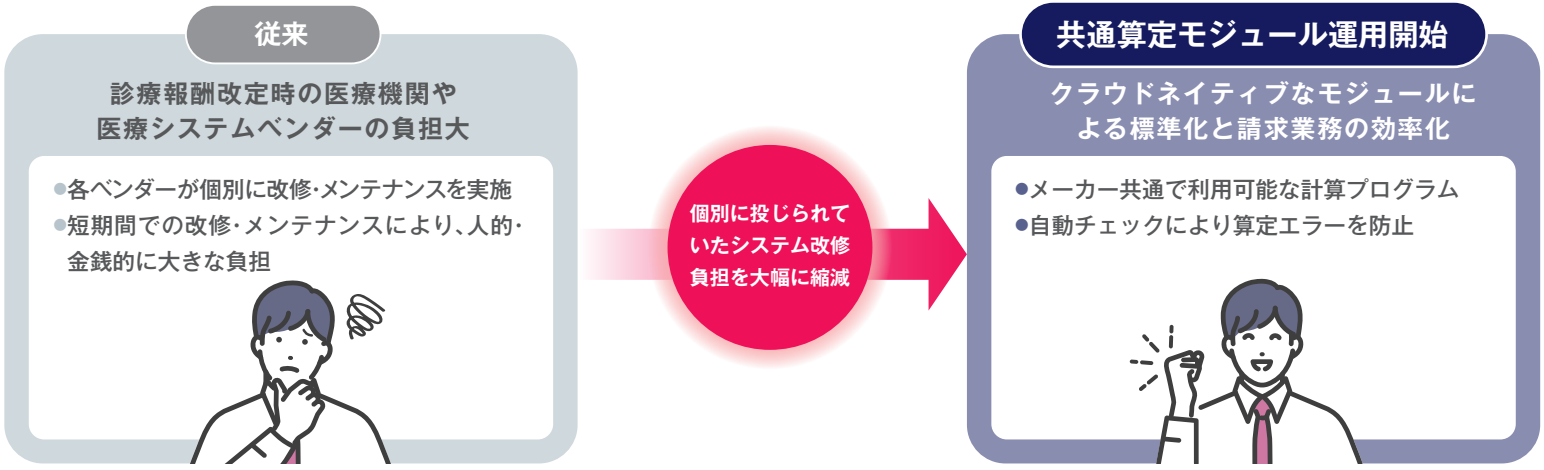
Future Topics フューチャートピックス

診療報酬の算定と患者の窓口負担金を算出するプログラム「共通算定モジュール」の本格運用を開始、医療現場のシステム改修負担を大幅に軽減

少子高齢化やデジタル化・データ活用の遅れを背景に、医療現場では医療従事者の負担軽減や業務効率化が喫緊の課題となっています。これを受け、日本政府が推進する医療DXの3本柱のひとつ「診療報酬改定DX」は、医療機関や医療システムベンダーの診療報酬改定時の対応負荷を軽減し、効率化を図る取組みです。この一環として、フューチャーアーキテクトが設計・開発を手掛けた「共通算定モジュール」の本格運用が2026年6月1日より社会保険診療報酬支払基金において開始されました。

これまでは、原則2年ごとに実施される診療報酬改定時に、各ベンダーが個別にシステム改修やマスターメンテナンスを短期間で集中的に行うことで対応しており、人的・金銭的に非常に大きな負荷となっていましたが、「共通算定モジュール」の運用開始により、改修期に集中していた各ベンダーの業務平準化とともに、一元的なプログラムによる算定の標準化と請求業務の効率化が期待されます。

フューチャーアーキテクトは引き続き本モジュールの安定的な運用や、請求支援機能を含めた継続的な機能拡充及び対象となるレセコンの更なる拡大に向けた技術的支援を通じて、日本の医療DXを支える強固な基盤づくりに貢献していきます。



特集

フューチャー、AI社会実装No.1カンパニーを目指しステートメントを発表

「AI駆動開発」による生産性3倍とAI×ITのトータルデザインにより社会課題解決を加速

フューチャーは、「経営とAIをデザインする」というコンセプトのもと、AIをエンジンに、より多くのお客様と社会課題解決に向けたプロジェクトを推進するため、AI駆動設計・開発をはじめとする2026年度以降の取組み及び方針についてステートメントを発表しました。

私たちは、AI市場における自社の立ち位置をAIプラットフォーマーや既存ベンダーとは異なる第三極の「トータルデザイナー」と定義しています。AIの高度な専門性と、ITアーキテクチャのトータルデザイン力、それを具現化する実装力を強みに、お客様の変革を支援しビジネスをAI-Nativeへと再定義するとともに、私たち自身も「AI社会実装No.1カンパニー」を目指します。

また、未来価値最大化に向けて3つの注力テーマを掲げ、自社のAI活用を推進し過去の延長線上ではない非連続な成長を目指します。

未来価値最大化に向けた３つのテーマ

① 経営×ITにAIを融合したトータルデザイン

経営とITの強みにAIを融合した経営・システムアーキテクチャの実現

経営においては、今やAIはどう使えるのかではなく、当たり前にある前提へとシフトしており、その流れは加速しています。部分最適でのAI活用ではなく、経営をAI前提に再構築することが必要です。そのために私たちは、「経営」「業務」「システム」それぞれが連動し、最適配置されたAIアーキテクチャをトータルにデザインします。

② AI-Nativeな設計・開発変革

AI-Nativeな設計・開発変革を通じて生産性を3倍に

私たちは、自らの業務プロセスにもAIを深く統合し、プロジェクト運営の核となる設計・開発プロセスを進化させます。AIを駆使した独自の設計・開発支援ツールにより、2027年以降の生産性を3倍に向上させ、より多くの社会課題に向き合える基盤を整える予定です。

③ 技術資本・人的資本への投資

人的資本投資を強化し成長を牽引

私たちは、「ビジネス」「マネジメント」「テクノロジー」「エンジニアリング」の4つの構成要素においてAI時代に求められる提供価値をアップデートした独自の研修プログラムを確立してコンサルタント人材を育成しています。高度専門人材の育成に注力することで、これからも成長を牽引する投資を強化します。

フューチャーの業績・財務ハイライト

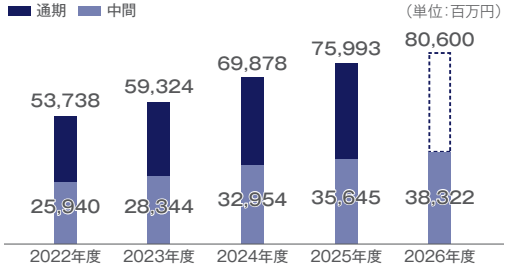
決算のポイント

2026年12月期 中間期の連結業績

- フューチャーアーキテクトにおいて、金融機関向けクラウド型基幹系業務システム「次世代バンキングシステム」の新規導入プロジェクトが順調に進捗しているほか、様々な業種の大規模プロジェクトが順調に進捗
- YOCABITOの経営改革の成果等により営業損失が縮小

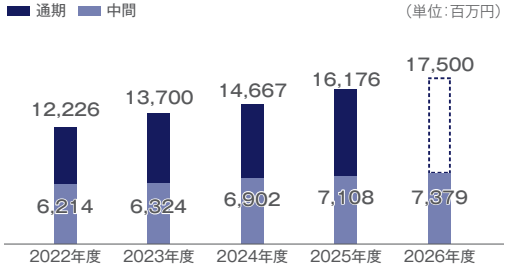
売上高

38,322百万円
（前年同期比7.5%増）



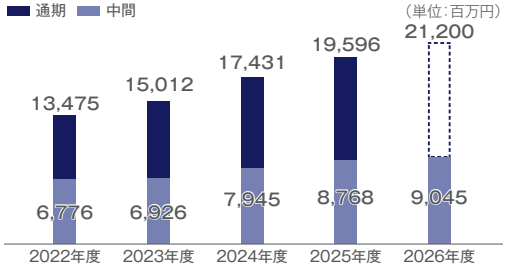
営業利益

7,379百万円
（前年同期比3.8%増）



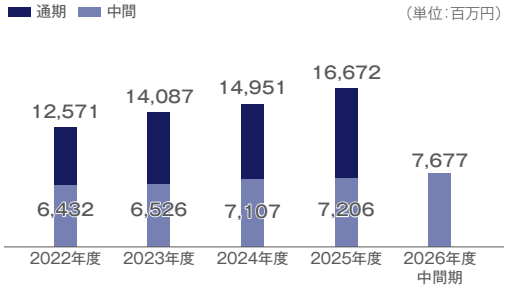
EBITDA

9,045百万円
（前年同期比3.2%増）



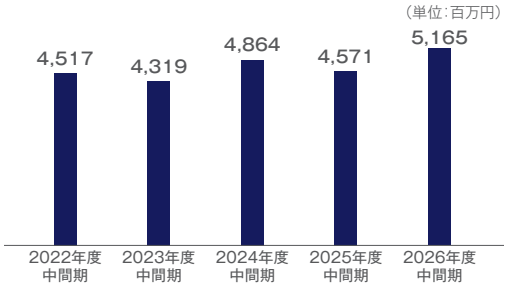
経常利益

7,677百万円
（前年同期比6.5%増）



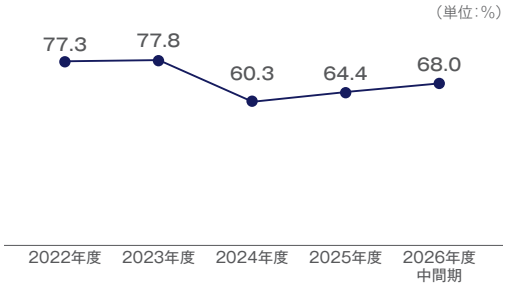
親会社株主に帰属する中間純利益

5,165百万円
（前年同期比13.0%増）



自己資本比率

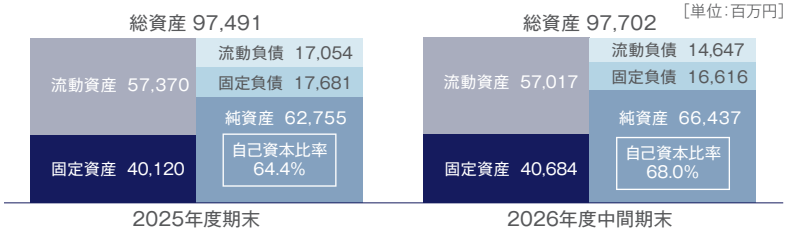
68.0%
（前期末比3.6pts増）



決算のポイント 連結貸借対照表

- 総資産は現金及び預金、投資有価証券の増加等により、前期末比210百万円増加
- 負債は長期借入金や未払法人税の減少等により、前期末比3,471百万円減少
- 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比3,682百万円増加

総資産の推移

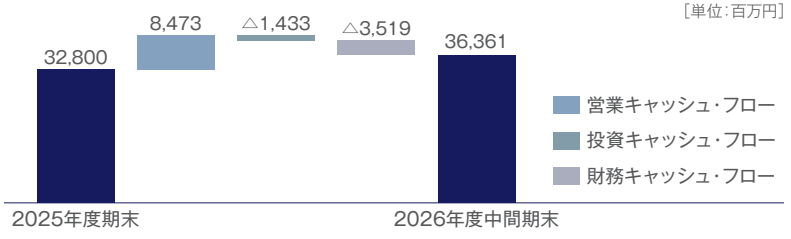


※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

決算のポイント 連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業キャッシュ・フローは、利益のほか、売上債権の回収などにより84億円の収入
- 投資キャッシュ・フローは14億円の支出
- 財務キャッシュ・フローは有利子負債の返済、配当金の支払により35億円の支出

キャッシュ・フロー

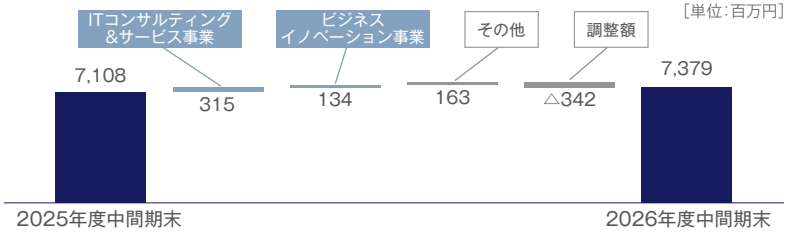


※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

決算のポイント 連結損益計算書

- ITコンサルティング＆サービス事業は増収・増益、ビジネスイノベーション事業は減収・営業利益は黒字転換となり、連結全体の売上高、営業利益は増収・増益、親会社株主に帰属する中間純利益も増益

営業利益の増減要因



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

決算のポイント 株主還元

- MBOの成立を前提に、中間配当24円、期末配当は無配に修正
- 2026年の配当性向は、上期の1株当たり連結純利益58.24円と中間配当24円を基礎に計算し、41.2%

中間配当金
（前年同期比1円増） **24円**

期末配当金（予想） **0円**

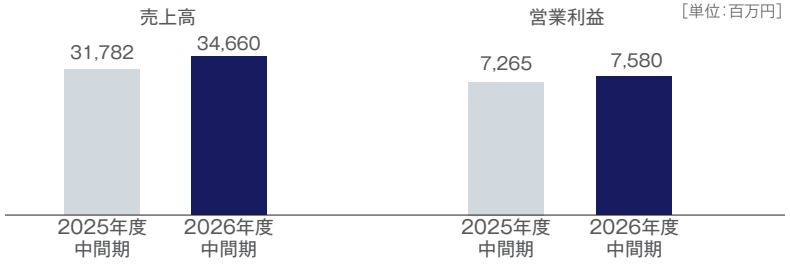
フューチャーのセグメント別業績・戦略

ITコンサルティング&サービス事業

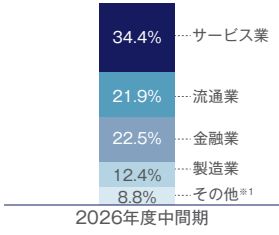


セグメント売上高
34,660百万円
（前年同期比9.1%増）

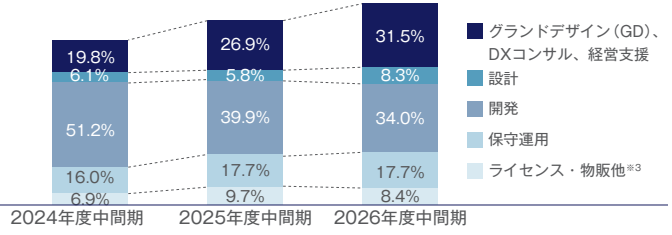
セグメント利益
7,580百万円
（前年同期比4.3%増）



ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別※2売上高構成比推移



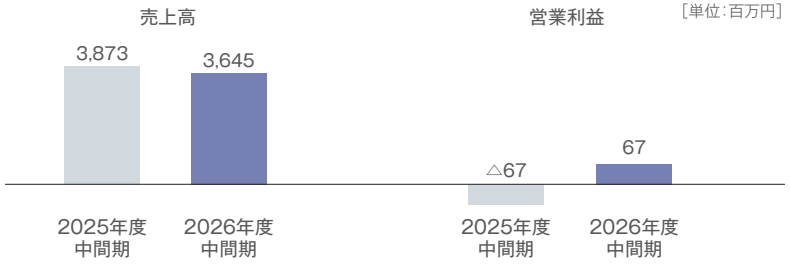
※1「その他」は、官公庁・地方公共団体等への売上高となります。
※2 2025年度第1四半期まで「GD」「保守運用」「ライセンス・物販他」に区分していたリヴァンプの売上を、2025年度中間期より「GD」「設計・開発」「保守運用」「ライセンス・物販他」に区分して表示しています。2024年度中間期の数値も同様の区分をしています。
※3「ライセンス・物販他」は知財からのライセンス収入、IT機材の選定・調達・販売に係る売上等となります。

ビジネスイノベーション事業



セグメント売上高
3,645百万円
（前年同期比5.9%減）

セグメント利益
67百万円
（前年同期比—）



2026年度の進捗（ITコンサルティング&サービス事業）

社名	売上	営業利益	2026 中間期レビュー	今後の見通し
フューチャーアーキテクト	増収	増益	●「次世代バンキングシステム」の新規導入行への設計フェーズが順調に進捗したことに加え、政府主導の医療DXや小売業、食品卸、金融等様々な業界の経営改革に関する大規模プロジェクトが順調に進捗 ●「GlyphFeeds」「FutureApparel」といった知財に係る保守売上も増加	●経営改革のパートナーとして、お客様を包括的かつ長期にわたり支援する協業基盤を構築 ●既存知財の展開でライセンス、コンサルティング及びカスタマイズ開発によるハイブリッドな収益モデルを確立
リヴァンプ	増収	減益	●既存顧客からの受注拡大やグループシナジーが売上増加に寄与したことに加え、引き合いも増加したことで、前年同期比で増収 ●更なる事業の拡大を目指した採用の加速により、採用費が増加したことなどから減益	●既存案件の着実な遂行、拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓 ●グループのリソース及びノウハウを活用し、共同案件の創出、品質の向上など、シナジー効果の発現拡大を図る
フューチャーインスペース	増収	減益	●新規開発案件が順調に立ち上がり売上に寄与したものの、今後の事業拡大を見据えたキャリア採用の強化により採用費が増加	●人材投資により体制を強化しながら高品質かつ安定的な運用保守サービスを提供していくとともに、顧客基盤と信頼を活かし、高付加価値なシステム開発事業を拡大
Future One	増収	増益	●「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大に加え、既存顧客への業務改善提案に伴うシステム開発案件の受注が拡大	●「InfiniOne」の業界特化型の営業展開により受注を拡大するとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューションを顧客に提供することで収益の更なる拡大を目指す
フューチャーアーティザン	増収	増益	●PLM及びBOM案件や、グループシナジーを活かして注力顧客で複数の案件を獲得したことに加え、適正なコストコントロールとAI等を活用した効率化が奏効	●製造業のドメイン知識と最新テクノロジーを組み合わせ、製造現場のデジタル化のみならず上流工程からの伴走型支援を推進 ●グループシナジーの更なる追求により、注力顧客や新たな領域での案件を獲得することで収益の拡大を目指す
フューチャーセキュアウェイブ	減収	減益	●セキュリティサービス、運用サービス、セキュリティ関連商材の保守更新等の受注は概ね計画通り推移したものの、一部受注が下期にスライド	●トータルセキュリティ運用を強みに、企業のセキュリティ課題の解決を包括的に支援するサービスに注力することで、更なる収益拡大を目指す

2026年度の進捗（ビジネスイノベーション事業）

社名	売上	営業利益	2026 中間期レビュー	今後の見通し
YOCABITO	減収	増益	●単品管理による販売商材の厳選等により減収 ●収益性の高い商品ラインナップへの構造改革が着実に進んだことによる粗利率の改善や、固定費削減などにより、営業損失は縮小	●プライベートブランドの強化を中心とした収益性の高い商品ラインナップの再構築と、AIを駆使したコスト削減を引き続き推進し、収益改善及び業績回復に努める
東京カレンダー	増収	増益	●コンテンツ事業における広告売上や積極的なイベント開催による収益に加え、「東カレデート」等のネットサービスによる収益が好調に推移し、増収増益	●リアルとデジタルを組み合わせた体験を提供することにより、顧客ロイヤルティを継続的に高める ●AI等のテクノロジーの全面活用を加速させ、顧客の利便性とオペレーションの効率化を同時に追求することで、持続的な成長と収益の確実な拡大を図る

会社概要（2026年6月30日現在）

会 社 名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設　　立	1989年11月28日
資 本 金	40億円
従業員数	3,814名（連結）

主要な連結子会社の状況（2026年6月30日現在）

フューチャーアーキテクト株式会社
フューチャーインスペース株式会社
FutureOne株式会社
株式会社リヴァンプ
フューチャーアーティザン株式会社
フューチャーセキュアウェイブ株式会社
株式会社YOCABITO
東京カレンダー株式会社
ライブリッツ株式会社
株式会社キュリオシティ

他10社

役員（2026年6月30日現在）

代表取締役会長	金丸 恭文
取締役副会長	石橋 国人
代表取締役社長	谷口 友彦
取締役副社長CTO	齋藤 洋平
取締役	神宮 由紀
取締役	山岡 浩巳
取締役CHRO	盛岡 美菜
取締役（常勤監査等委員）	市原 令之
取締役（監査等委員）	川本 明
取締役（監査等委員）	榊原 美紀
取締役（監査等委員）	竹内 明日香
取締役（監査等委員）	西浦 由希子

主な事業所（2026年6月30日現在）

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL：03-5740-5721　FAX：03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

株式の状況（2026年6月30日現在）

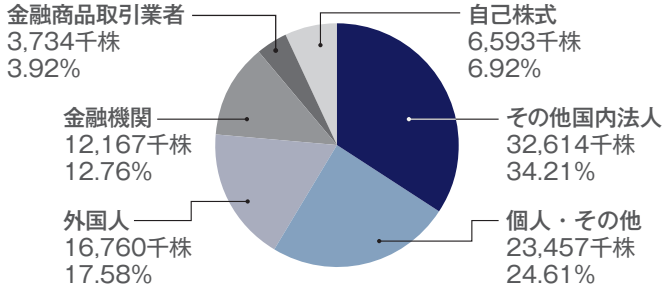
発行可能株式総数	378,752,000株
発行済株式の総数	95,328,000株
株主数	6,943名

大株主

株主名	所有株式数（千株）	持株比率（%）
合同会社キーウェスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸　恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	7,189	8.1
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,607	2.9
ＳＧホールディングス株式会社	2,000	2.2
モルガン・スタンレーＭＵＦＧ証券株式会社	1,602	1.8
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド	1,396	1.5
野村信託銀行株式会社（投信口）	1,273	1.4
石橋　国人	1,236	1.3
フューチャー従業員持株会	1,186	1.3

※1 当社は、自己株式を6,593千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。
※2 持株比率は自己株式（6,593千株）を控除して計算しています。

株式の所有者別状況

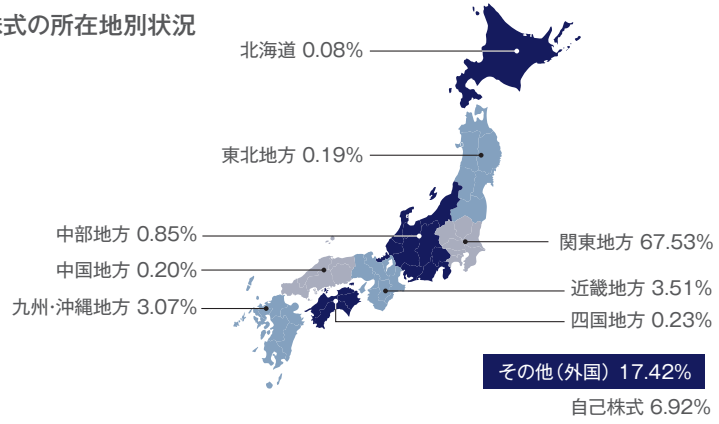


株主メモ

決算期	12月31日	期末配当基準日	12月31日
定時株主総会	3月	中間配当基準日	6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 （連絡先・照会先） 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル：0120-782-031 ホームページ： https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告掲載URL	https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/ ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



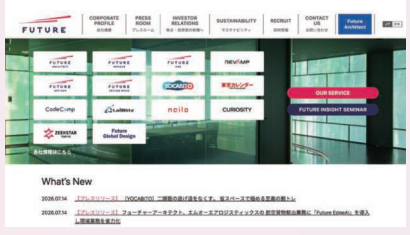
ご注意
1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

注意事項
本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性がございます。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

主なウェブサイト

コーポレートサイト

https://www.future.co.jp/



IR

https://www.future.co.jp/investor_relations/



公式メディア

https://www.future.co.jp/lttf/



その他のメディアはこちらから
https://www.future.co.jp/company_profile/g_media/

表紙写真：ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントするリーグH（日本ハンドボールリーグより名称変更）所属チームです。

Future Report 2026

フューチャー株式会社
本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2